

## グローバルゼーションにおける日本的価値観の崩壊

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

農耕民族と村社会という人の源流は、競争と技術文明という新しいグローバルゼーションの潮流において完全に崩壊しているのである。これらは既存社会の崩壊は新しい現実を有するのである。

これはアベノミクスの多面的な考察において、グローバル基準における現実構築は決定して誤りでないと判断できるのである。しかしこれは完全に既存現実の崩壊を有するのである。

これらは国内の独自社会の形成が自己の歴史的独立性とともに、存在することに対して、世界の潮流は、その標準化と統一化を与えることにおける葛藤が存在するのである。

これらは完全な既存社会の崩壊を有するのである。人々は自己指針を失い、新しい現実への隷属を要求されるのである。

これらは資本主義や自由経済システムが、資本力における支配を有することにおける現実なのである。

これらは共生という村社会の論理を転換し、競争というグローバル世界の現実への転換なのである。

これらは世界がその統一性を有することにおける現実であることは正しい判断と考える。閉鎖社会が黒船の来航において、その自己崩壊へ瀕しているのである。

これらは競争と富という、エリートたちの誕生を与えるものである。これらが現実を支配するため、これら現実への追従以外選択はないのである。

しかし、世界が WASP という現実を有する限り、その栄華は、唯一幻であることは正しいのである。

これら矛盾は葛藤を得る。グローバル化は、世界の現実への自己現実の吸収であるからである。